

事業番号	10 04 01	事業改善シート（令和 6 年度実施事業分）				☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	治山事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課				
		実施期間	S29 ～	E-mail	shinrin @ pref.nagano.lg.jp				

1 現状と課題

・近年、災害が激甚化、多様化、同時多発化しており、それら災害に対応する必要がある。
・森林資源の増加に伴い流木災害が発生しており、流木災害に対応する必要がある。
・治山施設の老朽化が確認されており、経年劣化した治山施設の長寿命化を図る必要がある。

2 事業目的

山地災害を防止し、被害を最小限にとどめ、安全で安心できるくらしの実現を図る。
--

3 事業目的を達成するための取組

①山地災害、地すべりからの復旧のため、山地治山総合対策等を実施
・山地災害、地すべりからの復旧のため、山地治山総合対策を実施（4月～7月豪雨等による被害箇所を復旧するため9月補正により21箇所を追加して実施。また、1月補正により、国の補正予算を活用して、当初予算で予定していた箇所のうち17箇所について、令和7年度事業を前倒して実施）
・山地災害の発生の恐れのある箇所への治山事業の実施（1月補正により、国の補正予算を活用して、当初予算で予定していた箇所のうち1箇所について、令和7年度事業を前倒して実施）
・災害発生時に被害拡大を防止するため応急工事を実施
②荒廃森林の整備や危険木除去の実施
・水源地域にある過密化し表土流出した森林の密度調整を行うため、森林整備を実施
・流木の恐れのある渓流沿いの倒木や支障木を除去（4月、7月豪雨等による被害箇所を復旧するため9月補正により2箇所を追加して実施。また、1月補正により、国の補正予算を活用して、当初予算で予定していた箇所のうち2箇所について、令和7年度事業を前倒して実施）
③治山施設の長寿命化の促進
・被災や破損した治山施設の修繕を行い、機能回復を図る（4月豪雨等による被害箇所を復旧するため9月補正により2箇所を追加して実施。1月補正により、国の補正予算を活用して、当初予算で予定していた箇所のうち1箇所について、令和7年度事業を前倒して実施）
・目詰まりしたボーリング孔を洗浄し機能回復を図る

4 成果指標

（推移の凡例 ↗：改善 ↘：悪化 →：変化なし —：数値なし）

No.	指標名	単位	R4年度		R5年度		R6年度		R6年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績		実績	推移	実績	推移			
①	治山事業実施箇所数	箇所	189		228	↗	170	↘	149	達成	総合5か年計画の目標（治山事業の実施により山地災害から保全される集落数_40集落/年）を達成するために必要な実施箇所数。

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （☆印が付いているものは主要目標）	単位	直近3か年の状況						目標	
				年/ 年度	数値	年/ 年度	数値	年/ 年度	数値	年/ 年度	数値
1-2①	災害に強い県づくりの推進	治山事業により保全される集落数(累計)	集落	2022 (R4)	2,210	2023 (R5)	2,242	2024 (R6)	2,274	2027 (R9)	2,414

6 事業コスト

（単位：千円、人）

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計			
				(予算現額)	うち一般財源		
R6年度	2,631,950	4,241,699	784,715	7,658,364	366,569	4,982,275	61.5
R5年度	3,371,348	4,128,434	1,145,775	8,645,557	424,859	6,013,176	63.5
R4年度	4,931,338	3,851,100	1,310,757	10,093,195	405,081	6,122,141	62.0

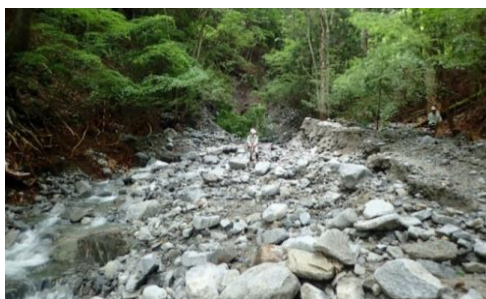
事業番号	10 04 01	事業改善シート（令和6年度実施事業分）		☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	治山事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課		

7 主な取組実績と成果

①山地災害、地すべりからの復旧のため、山地治山総合対策等を実施

- ・山地災害、地すべりからの復旧箇所や山地災害の発生の恐れのある箇所への治山事業及び災害発生時に被害拡大を防止するため応急工事を実施。
- ・県内各地で大きな被害をもたらしたR3年度7月～9月豪雨災害、R4年度7月～9月豪雨災害、R5年度6月豪雨災害、R6年度4月～7月豪雨災害で被災した地域について緊急的な整備を進めた。
- ・合計135箇所事業実施

（R5年度6月豪雨災害）



②荒廃森林の整備や危険木除去の実施

- ・水源地域にある過密化し表土流出した森林の密度調整を行うため、森林整備を実施。また、流木の恐れのある溪流沿いの倒木や支障木を除去した。
- ・合計17箇所事業実施

（流木の恐れのある溪流沿いの倒木や支障木の除去）



③治山施設の長寿命化の促進

- ・被災や破損した治山施設の修繕を行い、機能回復を図った。
- ・合計18箇所事業実施

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標 ①	治山事業実施箇所数	R5年度推移	↗	R6年度推移	↘	達成状況	達成
債務負担行為の活用や計画的な早期発注を行うことで、目標値を達成することができた。							

9 今後の事業の方向性

(1) 上記7、8及び県民の意見等を踏まえた課題

- ・山地災害危険地区等の保全対象となっている3,600集落のうち、既に対策工等がなされ、概成又は一部概成している集落数は、R6末で2,274集落（整備率：63%）であり、引き続き整備を進める必要がある。
- ・昨年度と比較し、治山事業実施に伴い新規に保全される集落数の伸び率に大きな変化は無い結果となった。これは、近年の災害により災害復旧に関する公共治山事業数が増加傾向にあり、集落の無い箇所についても道路等のインフラ保全のため優先して事業を実施していることが一因である。災害対応が優先されるため、総合5か年計画の施策の達成は年度の気象状況等に左右されてしまうことが課題である。

(2) 事業改善の方策

- ・治山事業により保全される集落数については、年度内の災害発生も視野にいれたうえで、長期的な視点を持って進捗管理を行い、達成に向けて事業計画を立案していく。
- ・未着手の山地災害危険地区箇所や新たに山地災害危険地区の指定が必要な溪流等を抽出し、優先的に事業を行い、集落の保全に努める。

事業名	治山事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
-----	------	----	-----	-----	----------

細事業No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
1	公共治山		5,514,932 千円	5,365,981 千円	4,430,998 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	山地治山総合対策事業	直接	荒廃森林の機能回復を図るため、山腹崩壊や荒廃渓流、地すべり等の復旧対策や森林整備を実施。（国の補正予算を活用して、21箇所の令和7年度事業を前倒して実施。） 58箇所の事業実施。		
2	農山漁村地域整備治山事業	直接	水土保全機能の高度発揮を図るため、荒廃森林、荒廃危険地等の山地復旧整備を実施。 28箇所の事業実施。		
3	災害関連緊急治山事業	直接	再度災害を防止するため、新たに発生した山地災害の発生源において、緊急的な復旧整備を実施。 6箇所の事業実施。		

細事業No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
2	県単治山		607,209 千円	647,195 千円	551,277 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	林地荒廃（災害復旧）	直接	公共事業と目的を同じくする小規模な治山工事で荒廃地の復旧、応急対策を実施。（4月～7月豪雨等による被害箇所を復旧するため9月補正により23箇所を追加実施。） 72箇所の事業実施。		
2	治山施設リフレッシュ事業	直接	公共事業と目的を同じくする小規模な治山工事で施設修繕等を実施。（4月豪雨等による被害箇所を復旧するため2箇所を追加実施。） 6箇所の事業実施。		
3	山地地盤変動モニタリング	直接	人工衛星情報を活用した地盤変動のモニタリングを行い、変動が顕著な箇所について時系列解析を実施。 5箇所の解析を実施。		